

図書館はいま危機に瀕している。危機は主として二つの方向から迫っている。一つは社会全体に及ぶ読書文化の衰退。もう一つは、短期的視野の利益中心主義的発想が文化や教育の領域まで浸食していることである。危機はもはや学問研究の危機にとどまらず、人間の知性や理性に対する脅威、平和への脅威のレベルに達しようとしている。こうした危機の中、はたして私たちは読書文化を活性化し、知性や理性の拠点である図書館を守っていくことができるだろうか？

この度、韓国から図書館の専門家3氏（下記参照）が来校されます。私たちと共通の困難に直面しながら創意工夫を尽くして読書文化を守り育てておられる先生方のお話に耳を傾けたいと思います。ぜひ多数ご来場下さい。

（東京経済大学図書館長・徐京植）

講師紹介

12月5日 講演会1

イ・ヨンフン（韓国図書館協会事務総長）

講演テーマ「韓国図書館の現在と未来—悩みと対応」

2012年開館した「ソウル図書館」の初代館長を務めた。

現在は図書館の振興と相互交流および業務協力のための団体「韓国図書館協議会」の事務総長

チョウ・クムジュ（ドゴク情報文化図書館館長）

講演テーマ「私たちが知らなかった世界の図書館」

米国ニューヨーク州立大学で文化情報学を学び、米国と韓国の図書館において司書として活動した。

世界各地の図書館を探訪して著作を刊行。

武蔵野美術大図書館など、日本各地の図書館も訪問した。

12月6日 講演会2

アン・チャンス（「本を読む社会文化財団」常任理事）

講演テーマ「読書を考える」

詩人、翻訳家。図書館設立に尽力し、現在まで12カ所の図書館を開館した。読書サークルの結成・運営を支援して、上記財団を「韓国最高の読書文化団体」に育て上げた。